

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY

平成23年6月20日（月）～6月26日（日）〔平成23年第25週〕の感染症発生状況

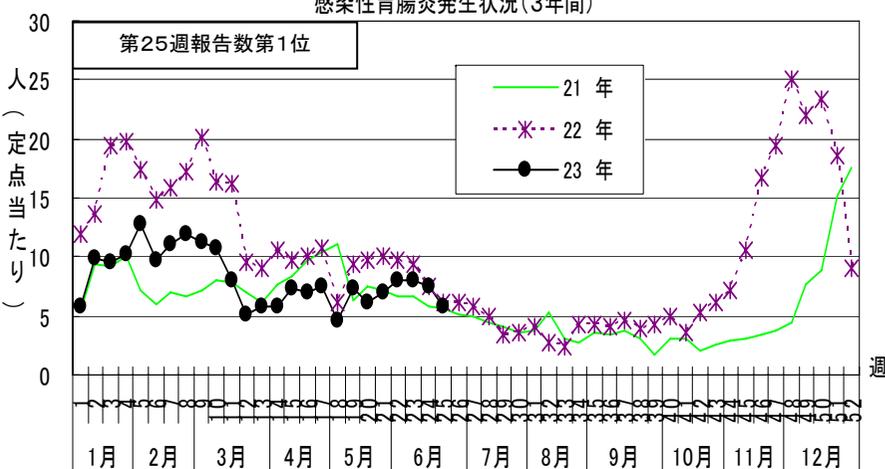
第25週で定点報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)伝染性紅斑でした。

感染性胃腸炎は定点当たり5.78人と前週（7.73）より患者報告数は減少し、例年をやや下回るレベルで推移しています。

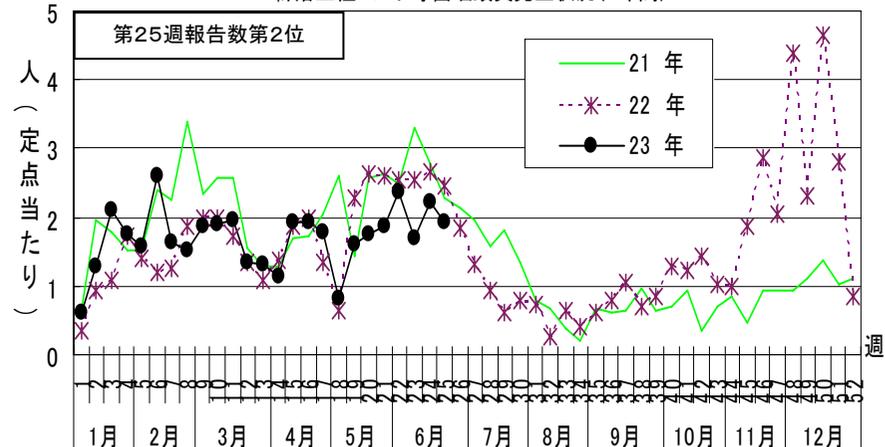
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり1.94人と前週（2.30）より患者報告数は減少し、過去10年間の同時期と比較すると、平成14年に次いで2番目に低いレベルで推移しています。

伝染性紅斑の患者報告数は大きく増加し、過去10年間の同時期と比較すると、平成21年に次いで2番目に高いレベルで推移しています。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)



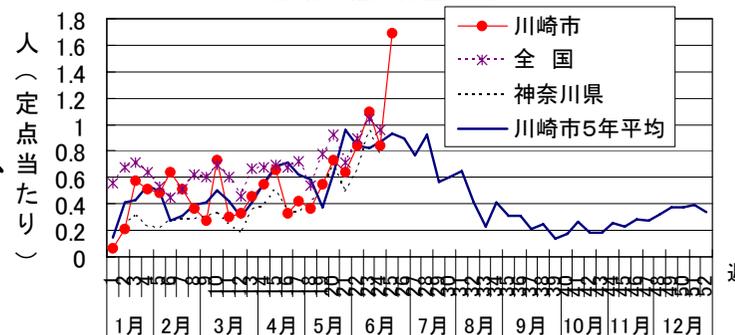
伝染性紅斑（りんご病）～患者数が急増中！～

川崎市内において伝染性紅斑の患者報告数が急増し、定点当たり1.69人と過去5年平均(0.93人)を上回っており、特に川崎区で報告が多く定点当たり4.80人となっています。

伝染性紅斑は両頬がリンゴのよう丸く赤くなることから『りんご病』とも呼ばれています。年齢別では、5～9歳での発生が最も多く、次に4歳以下が多くなっています。

季節的には、春から患者数が増加し、7月上旬頃にピークを迎え、その後は徐々に減少し、9月頃が最も少なくなる傾向にあります。※今年も右のグラフのとおり、春頃から患者数が増加傾向にあります。

伝染性紅斑発生状況



* 症状及び感染経路

10～20日の潜伏期間の後、頬に紅い発疹（リンゴの頬）が現れ、続いて手や足に網目状・レース状・環状などと表現される発疹がみられます。

これらの発疹は1週間程度で消失しますが、長引いたり、一度消えた発疹が短期間のうちに再び出現したりすることがあります。なお、ほとんどは合併症をおこすことなく自然に回復します。

また、特徴的な症状（紅斑）が出現する7～10日くらい前に、微熱やかぜ様症状などが見られることがあります。この時期にウイルスの排泄量が最も多く、飛沫や接触により他の人に感染をおこします。発疹が現れたときにはウイルスの排泄はほとんどなく、感染力はほぼ消失しています。

